

2017年（第16次）樹勢調査結果 速報

2017年8月 名勝小金井桜の会 事務局

初めに

平成14年(2002年)に第1回目の調査を実施してから毎年じっししており、今年で16回目になる、名勝小金井桜の毎木樹勢調査を実施しました。今回も桜の会会員のみで、従来同様の調査方法により盛夏の7月にブロック毎に実施しました。

今年は3年間にわたり小金井市主導で実施された関野橋～梶野橋間の小金井桜復活事業が完了し、合計46本(3か年合計、武蔵野市域を含む。今年は18本)の当会が育てたヤマザクラ苗木が植樹されましたが、概ね元気に育っている様子が確認されました。一方で新たに12本の枯死木が確認され、昨年の15本、一昨年の8本に続き、依然として桜並木全体の衰退は継続している状況です。

詳細な調査データは近日中に会のホームページに掲載されますが、ここに概要を速報版として纏めましたので報告いたします。

【1】調査日と調査メンバー

(アンダーラインはブロックリーダー)

第1ブロック(喜平橋～茜谷橋):

7月5日 石田精一、田嶋清二、三宅章、石田いく子、

第2ブロック(茜谷橋～小金井橋):

7月4日、10日 小迫悦子、小迫邦彦、竹前直子

第3ブロック(小金井橋～新小金井橋):

7月18日 岩間博昭、村山秀貴、蜷川八重子

第4ブロック(新小金井橋～関野橋):

7月18日 小沼廣和、日並洋一、杉本和子

第5ブロック(関野橋～梶野橋下流歩道橋):

7月18日 植竹隆夫、杉山利男、渡辺ふき子、宮川和幸

合計 17名

【2】調査方法： 昨年と同じ(東京樹木医PJ指定の調査票に基づき評点付して評価)

【3】調査風景：



調査風景；第2ブロック



調査風景；第3ブロック



調査風景；第4ブロック

【4】調査結果の概要：

ブロック	2017年 総合評価ランク					計	2016年 総合評価ランク					計	本年枯死 (不明を含む)	備考
	1	2	3	4	1		2	3	4					
	←状況が良い:状況が悪い→						←状況が良い:状況が悪い→							
1	0	3	93	16	112	0	0	100	12	112				
2	16	54	72	3	145	16	56	72	2	146	#938 が枯死			
3	27	87	9	0	123	10	24	82	10	126	#301-1、#310-1、 #846、#858 が枯死 #324-1 が萌芽更新中			
4	137	31	24	11	203	132	34	30	8	204	#386、#399 が枯死	KN30(平右衛 門桜)植樹		
5	45	27	42	14	128	79	13	14	9	115	#420、#422、#427、 #433、#435 が枯死	新たに 18 本を 植樹		
合計	225	202	240	44	711	237	127	298	41	703	2017年は枯死12本 (+1本 萌芽更新中)	2016 年は 枯死10本だっ た		
比率%	31.6	28.4	33.8	6.2	100	18.2	16.9	59.2	5.7	100				

詳細データは名勝小金井桜の会ホームページを参照ください。 URL : <http://koganeizakura.com>

【5】調査参加者の感想・コメント

第1ブロック

平成 29 年 7 月 5 日 会員 田嶋清二、三宅章、石田精一、石田いく子の 4 名で第 1 ブロックの樹勢調査を行った。

午前 9 時茜屋橋を起点に左岸を上流側に向かって調査を開始した。午前 11 時 30 分喜平橋に到達して左岸の調査を終え、#119 直近のレストランにて約一時間、昼食・休憩、午後 12 時 30 分右岸に移り小桜橋から喜平橋へ向かって調査を行い、次に喜平橋から小桜橋に移動、小休止の後小桜橋から茜屋橋に向かって調査を行った。調査終了は午後 3 時分、調査所要時間は休憩を含み 6 時間であった。

第 1 ブロックは右岸のごく一部以外の両岸は小平市域で、1~2 年前までは危険木の除去として何本かの高木が伐採されてきたが、近年は全く手つかずの状況で柵内の植生は年々密度を増しており、さらに柵外までも枝を伸ばすなど、柵外の桜の生育にも影響を及ぼしている。また水路内の中低木(シュロ、

アオキなど)も繁茂している。

ブロック内のサクラの古木は次第に数を減じ比較的樹齢の若いサクラが中心となっているが、若いサクラにも衰えがみられる。昨年に引き続きコスカシバ被害樹の増加が目立つ。

樹勢調査は昨年のデータを参考にしながら今年の状態を観察し評価した。

調査項目別に昨年の結果と比較すると

- ①生育環境：日照不足、土壌の固結、根系伸長制限はいずれも改善はみられず、日照不足が昨年より悪化した樹がみられた。
- ②樹木の生育状況：梢の枯れは数値が下がった、枯れ枝の剪定が影響していると思われる。
- ③病虫害：コスカシバ被害樹が昨年に続き増加している。昨年の被害樹率は65%であったが今年は86%まで増加した。
- ④キノコ類：サルノコシカケ、ベッコウダケがわずかではあるが減少した。
- ⑤総合評価：コスカシバの増加により評点が増加したが一方他の項目での減少があり全体としての評価は大きく変わらなかった。ランク3からランク4への悪化は4樹にとどまった。

所感：年々サクラ以外の植生は益々その勢いを増している。これに対してサクラは次第に勢いを失いつつあり、比較的若いサクラも生育に衰えがみられるものがある。上水の水路内に生育している広葉樹高木類を一日も早く除去してサクラの生育環境を改善する必要がある。

(石田精一 記)

第2ブロック

H29 年度樹勢調査 第2ブロック

左岸(北岸・茜屋橋～小金井橋) No.181～No.274+N62 計67本。

右岸(南岸・小金井橋～茜屋橋) No.867～No.960+S42+KS7～KS20 計79本。

猛暑が予測されるから1回2時間、早朝をベースに計画した。

- 1、7月4日(火)8:00～10:00 小金井橋右岸～貫井橋折り返し小金井橋左岸
- 2、7月10日(月)8:00～10:00 茜屋橋右岸～貫井橋折り返し茜屋橋左岸
- 3、7月18日(火) 予備 前2回で残った場合に充当、なければ杉山家桜接ぎ木講習会、あと懇親会

第2ブロック調査員 竹前直子、小迫邦彦、小迫悦子

〈第1回〉 7月4日(火)晴れ 8:00～10:30

朝から間違いなく猛暑日になる日差しの中、小金井橋右岸(南岸)から調査開始。今年は歩道が除草されていて気分が良い。上水柵内は雑草が元気よく繁っている。

若木(KS7～KS12)は順調に育っている。桜樹は年々それぞれに老化している。No.938が昨年の7月の樹勢調査直後、8月末から9月初めにかけて枯死と判定され伐採、切株となった。

9:30 貫井橋北岸へ。北岸の小平市管理部分は毎年総じて整備されている。若木の補植がないので桜並木は歯が抜けたようになってきている。(特に海岸寺入口に面したところから御成りの松までが並木になっていない)上水の元気の良い雑草の中でノカンゾウの花がそれでも健気に咲いている。10:30、北岸小金井橋着。



〈第2回〉 7月10日(月)晴れ 8:00~10:00

本日も早朝、茜屋橋右岸(南岸)より開始。若木(KS15)は補植後3年目に枯死の危機があったがこの2年復調著しく、ほぼ他の若木に追いついた。9:00 貫井橋折り返し。左岸でカブト虫のオスを見つける。10:00 茜屋橋にて終了。



感想

毎年第2ブロックの樹勢調査は他のブロックより時間がかかるのに今年は3名でやらねばならず、体力の衰えを考えて数日間に分けて実行する事とした。結果的に一日目(7月4日)は小金井橋~貫井橋、二日目(7月10日)は貫井橋~茜屋橋を調査した。一日目は2時間半、二日目は2時間で終了。毎年の事ながらブロック員の方々にただただ感謝するのみ。

今年(2017年)特に感じたのは葉の食害が殆ど見られなかったことだ。時期がちょっと早かった為だろうか?ただ、食害は見られなかったが葉の小型化、萎れが感じられた。根元の腐朽も進んだようだ。

コスカシバが例年より増え、ヒコバエも相変わらず多かった。毎年第2ブロックに多く見られるコフキ

サルノコシカケが大部分削り取られて跡形のみ残っていた。ただ削られても菌は中に残っているので又生えるかも。コウヤクタケは例年枯枝に見られるものが殆どだったのに、今年は生きた枝にも所々見られて驚いた。樹が弱ってきているのだろうか。カワラタケが勢いよく生えている樹が何本か見られ残念だ。

第2ブロックのソメイヨシノは右岸に1本、左岸に2本、計3本だがどの樹も瘤病が更に増えてきた。左岸のソメイ(No.199)は樹も大きく、花も白くて美しいのでソメイではあるが長生きして欲しいと願っている。

数値の評価は昨年とほぼ似たようなものだが、今年の第2ブロックは枯死木1本であった。大枝が剪定された為評価が良くなったものもあるが、一般的には弱ってきている感が否めない。

柵内は下草の中から顔をのぞかせていたノカンゾウ、ヤブカンゾウの花がほぼ終わりに近づき、白いネバネバ状のものが茎にビッシリ付いていたのが残念だった。下草刈りを5月末か6月初めに一度して頂くとノカンゾウが一面に見られて美しいのではと感じた。ノカンゾウが咲き終わった頃に又全面的に刈って頂けると夏場助かるのでよろしくお願ひしたい。

桜樹ナンバープレートの欠けたものが有り手製で補っているが、すべて官製で(平成30で統一した通し番号で)付けて頂きたい。

行政と桜の会で合同パトロールをして障害雑木を確認し対応策を具体化する必要があるのではと思う。

(小迫悦子 記)

第3ブロック

新たに4本が枯死。 ヒコバエが成長した1本を追加しました。

今年も左岸は高い雑木による日照不足が続いている、又コケの発生も多い。



調査風景

特徴としては、「コスカシバの被害」「つる草の繁茂」「ヒコバエの発生」件数が多い。

枯死した切株からのヒコバエ発生が見られ、復活の可能性がみられるので、今後の検討が必要と考えられた。

左岸の柵外下草は珍しく刈り取られていましたが、柵内の管理は右岸も含めて一切実施されていない状況でした。 管理の徹底が強く望まれる。

(岩間博昭 記)



切株からヒコバエ発生の例

第4ブロック

2017年7月18日午前9時30分から11時、真夏の太陽と蒸し暑さの中、関野橋から新小金井橋間の名勝小金井桜の「樹勢調査」を行った。

この第4ブロックは名勝小金井桜復活のモデル地区でありヤマザクラ並木を郷土の遺産として次代に引き継ぐための「あるべき姿」を内外にお見せるモデルとして管理者である東京都及び小金井市が中心となって日常の生育維持管理を行っているはずのものである。

しかしながら、毎年の樹勢調査のたびに指摘し、改善要請をしているにもかかわらず桜の成長を阻害する下草の伐採は連携がとられずバラバラの管理がされ、相変わらず下草が繁茂する状態であった。

昨年指摘したノカンゾウの花が満開の時期の水道局の下草刈りは延期され、我々の要望が叶ったことは良しとするが、それ以外の雑草の繁茂はすさまじいものであった。下草の伐採は7月末からしてほしい。



また、日常管理業者の定期的なパトロールがされておらず、植樹した後継樹の添木支柱への補助縄が春先から切れた状態で放置され、何か月も管理不足であった。我々が永年主張している地元市民団体に困る維持管理でなければ解決しない。

また相変わらず、植樹した後継樹への雑草や弦による被害は目を覆うばかりであり、とりわけ葛の弦は非常に頑固で強靱であり、植樹した桜自体を枯らしてしまう脅威を感じその場で刈り取りを実施した。



昨年の調査で指摘した、小金井公園桜守の会が小金井市に寄贈した、ヤマザクラと寒緋桜の交配種とみられる2月下旬に超早咲きで開花するN17・N20・N26・S27の植替えを今年の植栽時に植え替えを早急に実施するとともに、昨年指摘し未処置であるフェンス内の後継樹の成長不良なN30、枯死したS35、古木で枯死状態及び伐採済みの756・740・722・720・714・695・692の合計9本を今年度の植樹事業に追加して補植してほしい。

最後に、嘉永3年(1850)の補植の際に下田半兵衛により関野橋袂に建てられた「桜樹接種碑」には『百年余がたち老木化が進んだので・・・村むらで桜の苗木を持ち寄り、それぞれの持ち場に数百本を植えました・・・桜樹が永久に植え継がれ、保護されることを願って建てたものです。』とあります。

是非先代の願いを私たちも引き継ぎたいと願っています。

(小沼廣和 記)



第5ブロック

7月18日、盛夏の割には薄曇りで、幸いなことにやや猛暑が和らいだなか、会員の杉山利男、宮川和幸、渡邊ふき子、植竹隆夫の4名で第5ブロックの樹勢調査を行った。午前9時に関野橋に集合して左岸を下流に向かって調査を開始し、梶野橋下流の横断歩道橋で右岸にわたり、引き返して関野橋に戻ったのが午前11時25分だった。



調査メンバーのスナップ写真
(渡邊ふき子さん撮影)

この第5ブロックは平成26～28年度の3年間にわたり、小金井市主導での小金井桜復活事業として関野橋～梶野橋間のヤマザクラ苗木補植と周囲の雑木伐採が行われ、景観が一変した区間である。

我々の会が育てた苗木が計46本(この冬は18本)植樹されたが、全てが枯れることなく概ね順調に生育していることが確認できた。但し6月の水不足の影響が残り、枝が枯れ、葉が萎れている今年植樹した苗木も数本ある。さらには夏草が巻付き酷い状態の苗木も多く、あまり酷いものは除去したが、伸び放題の夏草の繁茂と合わせ、下草刈りが必要である。水不足の件は既に都へもレポート済みだが、改めて植樹した年のケアの重要性が痛感させられる。

一方既存樹については、新たな枯死木が5本(全て左岸、上水北側。伐採済みを含む)確認された。後述するように幹や大枝が空洞化し、台風でも来れば倒壊の恐れのある危険木も数本出てきており、衰退は確実に継続している。整備事業で被圧していた樺等の高木が伐採されて、道路側だけに枝が張り出している極端な樹形がより目立つ状態にはなっているが、日当たりが良くなり、上水北側の一部の桜樹では南側(上水側)に若い枝が伸びだしているのも確認できた。

なお今回は調査終了後、杉山さん宅に伺い、他ブロックの調査メンバーと合同で今年から当会として取り組もうとしている「接ぎ木」の技術講習会を行い、杉山さんのご指導を受けながら樹勢調査参加メンバーが実技の練習を行った。その後、慰労・打ち上げを兼ねたバーベキューパーティーを行い、スイカをはじめ取れたてのとびきりおいしい夏野菜をたくさんご馳走になった。

以下に今回の調査で確認できた倒壊の恐れのある危険木の写真を列挙する。台風シーズンを控え、できるだけ速やかな処置の実施が望まれる。



根元に大きな空洞あり(#440、左岸)



朽ちて折れる危険のある大枝あり(#599、右岸)



幹に空洞、倒壊の危険あり
(#615、右岸)



幹に空洞、倒壊の危険あり
(#457、左岸)



幹に空洞、倒壊の危険あり
(#638、右岸)

(植竹隆夫 記)

以上